

無印紙

## 実用新案登録願6

(1,500円)

3,000円

昭和50年8月6日

特許庁長官 潤 康 英 雄

1. 考案の名称 荷物運送装置の荷造り装置

2. 考案者

住所 群馬県高崎市高崎町314  
氏名 吉川 勝

3. 実用新案登録出願人 マックス株式会社

住所 東京都台東区上野5丁目4番3号  
氏名 マックス株式会社  
代表者 吉川 勝

4. 代理人

住所 東京都墨田区東向島2丁目11番地  
氏名 （6773）弁理士 小林 純

5. 添付書類の目録

(1) 明細書	1	通
(2) 図面	1	通
(3) 願書副本	1	通
(4) 委任状	1	通

同時に提出した実用新案登録(1)のものを採用する



50-108623

## 明細書

### 1. 考案の名称

釘打機等の打込み用ガイド

### 2. 実用新案登録請求の範囲

ノーズに沿つて上下動自在となるようにコンタクトアームに関連配設したホルダの先端に軸方向に突出する一対のアタッチメントを着脱自在に配設して成る釘打機等の打込み用ガイド。

### 3. 考案の詳細な説明

本考案は釘やステープル等の綴着具を打込む工具に適用して有用な打込み用ガイドに関するものである。

従来より建築用内外装材を対象物に対し釘やステープルで打付けるために自動釘打機や自動タッカー等の装置が用いられている。

これらの装置の一例としては、装置本体内に組んだ加圧空気式のシリンダ・ピストンから成る駆動機構によりドライバを作動させ、ノーズ内より釘やステープルを一本ずつ打出すようにしたものが知られている。

ところで、この種従来のものでは対象物に対してノーズ先端すなわち釘等の打出し口を正確に位置合わせしたり、特に対象物表面に凹凸があるようなものの山部や谷部或いは段部等に沿つて釘等を打込んだりするのに極めて不便であつた。

そこで、本考案は対象物表面が凹凸状となつていたり、或いは狭い隙間に内に釘等を打込む場合においても容易に正確な釘等の打込み作業を行ない得るようなガイドを提供しようとするものである。

本考案にかかる釘打機等の打込用ガイドはノーズに沿つて上下動自在となるようにコンタクトアームに関連配設したホルダの先端に軸方向に突出する一対のアタッチメントを着脱自在に配設して成ることを特徴とするものである。

以下これを第1図から第3図に示す一実施例について説明する。

1はホルダであり、中央部には軸方向に貫通するノーズ挿通穴2が開設されている。このノーズ挿通穴2は上記ホルダ1を図示しない釘打機に取り付け釘の打込みを行なう場合に釘打機のノーズ

が第1図中上下動自在に挿通されるようになつて  
いる。

また、上記ホルダ1は図示しないが少なくとも  
釘打機のコンタクトアームに直接或いは間接的に  
関連結合され、すなわちホルダ1をノーズに沿つ  
て押し上げるときにはコンタクトアームがこれに  
伴ない押し上げられ、或いはコンタクトアームが  
ノーズに沿つてノーズ先端方向に押し出されると  
きにはこれに伴なつてホルダ1もノーズ先端方向  
に摺動されるようになつてゐる。

そして、上記ホルダ1の先端面3には一対のア  
タッチメント嵌着用の穴4が前記ノーズ挿通穴2  
の両側に軸方向に開設されており、この穴4の中  
途部内周壁には小孔又は凹状の保合部5が形成さ  
れています。また、6は上記各穴4内に嵌着されホ  
ルダ1の先端軸方向に突出するアタッチメントで  
ある。

このアタッチメント6は硬質ゴム、合成樹脂等  
により軸状に形成され、突出端6a部分が対象物  
Aへの当接面となる。そして、図示の例ではこの

アタッチメント6の中途部両側には前記係合部5に対応係合する突起7が突設されており、また、基端中央部には膨出部8がさらに先端中央部には凹状切欠き部9が刻設されている。したがつて、アタッチメント6を基端側より上記穴内に挿入し嵌着する場合にはアタッチメントの突出端には切欠き部9が位置し(第3図(1)参照)、またアタッチメント6の先端側より上記穴4内に挿入し嵌着する場合にはアタッチメント6の突出端に膨出部8が位置する(第3図(2)参照)というようによつて一つのアタッチメントのホルダ1への取付け方向を変えるだけで二種類の形状のアタッチメントとして使うことができる。

また、アタッチメント6の前記突起7の突設位置を基端又は先端のいずれか一端側に片寄らせておけば、上述の如くアタッチメント6のホルダ1への取付け方向を変えるだけでホルダ1の先端方向へのアタッチメントの突出長さを変えることができ釘の打込み深さを調整することもできる。

さらにまた、各穴4, 4に嵌着される一对のア

タッチメント 6 の一方のものの長さを長寸とし、他方のものの長さを短寸としたものを用いる場合には第 4 図の如く段状部等に正確に位置合せすることができる。

そして、上記アタッチメント 6 はホルダ 1 に二本突出配置されているので波形状板材等の山部に釘打ちを行なうときにはこれら二本のアタッチメント 6 を山部の頂部にまたがせるようにし、或いは谷部に釘打ちを行なうときには谷底部内に挿入することにより一つのガイド装置により容易に各種表面形状の対象物 A への正確な釘打ち作業を行ない得るものである。

また、第 5 図はアタッチメントの着脱機構を上記実施例と異なる構成としたものである。すなわち、この例ではホルダ 1 の先端面 3 より軸方向に二本の柱体 10 を突設して置き、またアタッチメント 6 の一端には軸方向穴 11 を刻設しておき、これら柱体 10 に上記穴 11 を嵌合離脱させることにより着脱し得るようとしたものである。

さらにまた、図示しないがホルダ 1 とアタッチ

メント 6 間に雄ネジと雌ネジを配設し、これらの  
螺合関係により着脱自在としても良い。この場合  
には螺合寸法を変えることによりアタッチメント  
6 の突出長さを可変し得る。そして、この場合、  
さらにアタッチメント 6 とホルダ 1 間に図示しな  
いスペーサを介在させるようにしても良い。

上記構成にかかる本考案においては釘打ち込み  
対象物への当接面が二本脚状に突設されたアタッ  
チメント先端に配設されているので、狭い間隙内  
や凹凸状表面であつても容易正確に釘等を打込む  
ことができる。

なお、本考案は上述した各実施例に限定される  
ものではなく、ノーズに沿つて上下動自在となる  
ようにコンタクトアームに関連配設したホルダの  
先端に軸方向に突出する一対のアタッチメントを  
着脱自在に配設して成る釘打機等の打込み用ガイ  
ドであれば他の構造であつても良い。

#### 4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案の一実施例を示す要部縦断面図、  
第 2 図は底面図、第 3 図は異なる使用状態の要部

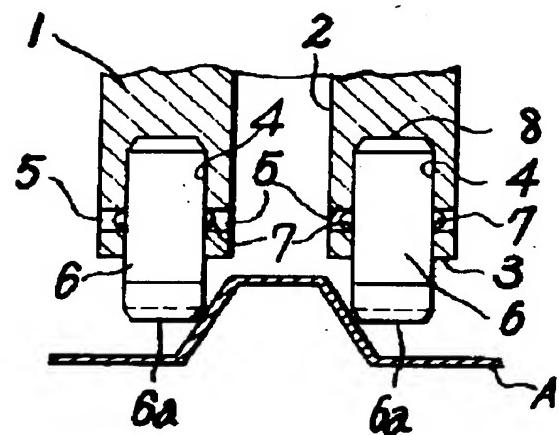
側面図、第4図は他の実施例を示す要部縦断面図、  
第5図はさらに他の実施例を示す要部縦断斜視図  
である。

- 1 ... ホルダ
- 4 ... ホルダ嵌合穴
- 6 ... アタッチメント

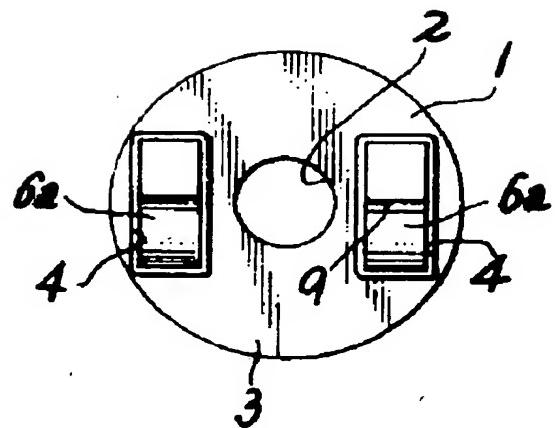
実用新案登録出願人 マックス株式会社

代理人 弁理士 小池晃

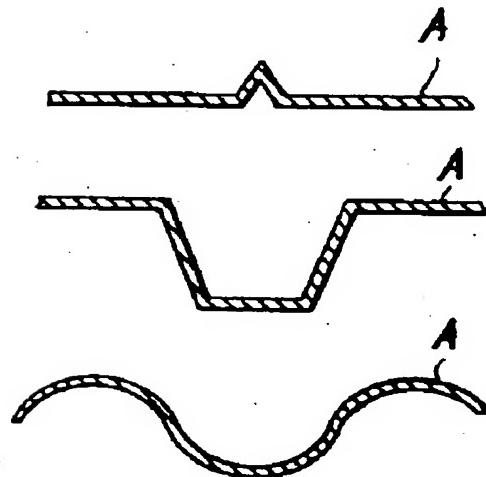
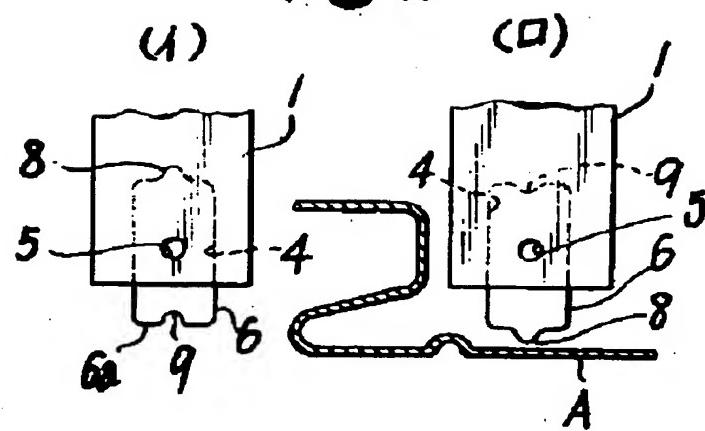
第1図



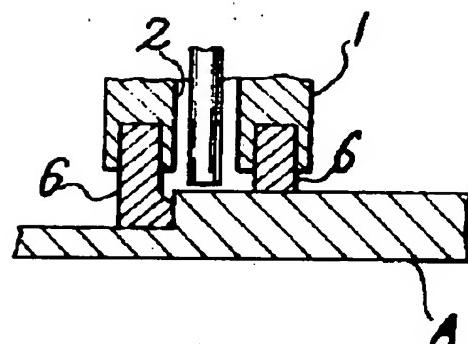
第2図



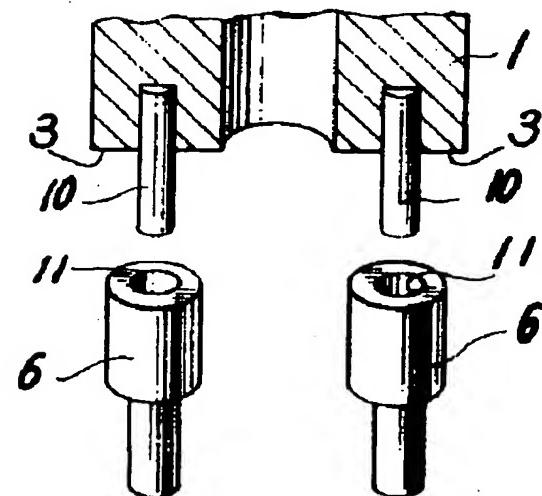
\* 3 ■



第4図



第5図



实用新案登録申請人 マックス株式会社  
代理人 小林士夫